同窓会報
千南原
第10号
昭和60年2月18日発行
編集・発行
藤枝市天王町1丁目7−1
静岡県立藤枝東高等学校
同窓会事務局

誠の像建立
母校サッカー部の快挙を祝す

会長　伊村隆恵

改年を迎えお祝い申し上げます。同窓の諸大兄においては、愈々御隆盛かつ御健勝にて御活躍の事と推察いたし、お喜び申し上げます。

さて会報は従来春秋二回発行されておりますが、御承知の如くサッカー部が去る十一月十七日県下大会に制覇を成しとげましたので、一月の全国大会終了後報告を兼ねて発行したいと考え、年移って昨年来の事業等について合せて報告いたす次第です。

◆「誠の像」寄贈について◆

母校創立六十年にあたり、すばらしい躍進と幾多の輝かしい伝統をもつ本校に学ぶ生徒達が、より深く本校を愛し、高い知性、豊かな感性、確かな言動、即ち建学の精神である「至誠」の実践を身につけてほしいとの願いから、誠の像の建立を同窓会に対して鎌田校長より要望されました。役員協議の結果、意義深い趣旨に賛同、とき恰も六十年前の十一月二十日は志太中学創設認可の日であることから、この日を卜して除幕式を挙行いたしました。

作者は彫刻界の重鎮である静岡県出身の堤達男先生であり、先生は〝「日月無私照」の言は誠に通ずる明言である。左手の日輪はそれを象徴するものである。〟との意向のもとで刻まれました。誠に本校にふさわしい像であります。在校の生徒諸君が日々の生活の中で誠の心を道標として、たゆみない学業への精進を願っての同窓会よりの寄進であります。像は創立五十周年記念事業で寄贈した中庭造園内に立っております。

◆「蹴上王者藤枝東」全国大会へ駒を進める◆

近年とかく振わなかった母校サッカー部が五年ぶりに県下優勝、一月全国高校選手権大会へ晴れの出場に、サッカーの町地元藤枝は喜びに湧きかえりました。なお卒業生の諸兄も、最近の不調を憂いておりましたが、これまた歓喜し共々に厚い支援の熱援を載きました。

十二月三十日、鎌田監督を始め選手諸君は必勝を胸に秘め勇躍校門を出発し、年明けて三日四日と地元民、父母、全生徒の熱狂的な大声援のもとで、順調な歩を進め、六日準々決勝を大宮サッカー場にて新潟工高と奮戦し、戦勝。願望の国立競技場にて七日準決勝にのぞみ、両校共によく攻め、よく守り五分五分の好試合を展開するも遂にPK戦に惜敗、決勝進出は果たせなかったが、全試合を通してまさに死斗の戦いを進め、十一年ぶりに三位入賞銅メダルを獲得の栄誉を得たことは、まさに快挙でありました。特に何人もここまでの進出を予期していなかっただけにこの名誉は、サッカーの流れが藤枝から清水へ流れていたが再び藤枝へ大きく変遷する転期であると共に、今後への期待がかけられたことで実に喜ばしい限りであります。

此処に今大会を通してサッカー後援会、PTA、父母の会、同窓会が一体となって物心共々の支援激励は必ず来年も再度国立競技場にて好試合を再現してくれると確信し、只管鎌田監督を始め選手諸君が一大精進をし、多くの支援者に応えてくれると考えます。

◆第三期生小林正己画伯、加藤春彦氏の遺作を同期生が会館へ寄贈される◆

昨年十一月十一日第三期生の集いの席上にて故小林正己画伯の遺作を同級生の岡本正明氏が苦心し集められ、これをコピーアルバムにされ寄贈、また同期生にて志登呂焼第十四代故加藤春彦氏の名陶器の遺作、なおこの由を聞かれた元本校教師、恩師鈴木海音先生が大変感激され、八十六才の高齢とは思えぬ達筆にて立派な書を送られました。以上三点をありがたく受納し、今春四月頃より会館応接室に展示することとなりました。同窓の各位には同期の集会の折々に、同窓会館を利用の上にて御観覧をいただければ幸いと存じます。

ご挨拶

学校長　鎌田勝

謹んで昭和六十年の輝ける新春のご祝辞を申し上げます。

同窓会員の皆様には、平素から本校の発展振興に、あたたかいご支援をいただき厚くお礼申し上げます。

昭和五十九年（一九八四）は、志太中学一期生が入学した大正十三年（一九二四）から六十年、還暦に当り、甲子（キノエネ）というエトの出発になる意義深い年でした。三月には、現役浪人共に二二六人が国公立に合格するという、創立以来の進学成果がありました。これは、県下の高校で第三位に当る成績でした。又開校記念日の十一月二十日には、シンボルとなる「誠の像」の除幕がありました。サッカー部は、県優勝をなしとげ、全国大会に出場して堂々と第三位に入賞する活躍がありました。本校が今までの栄光ある歴史を継承して、新しいものを創造する旅立ちにふさわしい年であったと思います。

至誠一貫の校訓を象徴するシンボルを作って、東高生徒の魂のより所を与えたいということは、私の着任以来の念願でありました。幸い同窓会の伊村会長さんはじめ役員の方々のあたたかいご支援のもとに、日本を代表する彫刻家堤達男先生の手になる「誠の像」と、本校の先輩であり文学界にその鬼才が注目される作家の小川国夫先生による詩碑を、同窓会寄贈の創立五十年記念庭園に、建立除幕できたことは本当にうれしいことです。この英姿は、長く本校のシンボルとして、ここに学ぶ生徒達に仰ぎ見られて、深い感銘を刻んでゆくものと信じます。

サッカー部の全国大会出場に際しましては、同窓会の皆様より物心両面のご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。おかげで五年ぶりに全国選手権に出場し、十一年ぶりに第三位のメダルを手にできたことは、関係者一同の大きい喜びでございます。注目されるようなスターのいない殆んど無名の生徒達が、あの桧舞台で藤色のユニフォームにふさわしい活躍をしてくれました。県大会から苦しい試合に耐え抜いてきた生徒達のドラマでした。さわやかで、思いっきり青春だろうと思います。

現在の生徒数は全日制千八十三、定時制七十、教職員七十です。今年四月、新入生の入学で本校としては初めて二十四学級になります。県下有数の名門校として、入学生徒の質は一層向上するものと思います。二十一世紀の日本をリードする青年を育成する責任の重さを思い、皆様のご期待に応えるよう一層努力してまいります。今後とも宜しくお願い申し上げます。

同窓会基金
昭和五十九年度予算及び事業について
＝募金なお継続事業に＝

昭和五十二年二月藤枝東高等学校同窓会臨時総会において決議され、五ケ年計画のもとに進められてきた同窓会基金募金活動は同窓会員各位の深いご理解とご協力により、二千五拾壱万七百円に達しました。本年度はこの基金の趣旨の通り、同窓会館を基金の趣旨の通り、同窓会営繕・管理、母校で勉学にスポーツに励む生徒のためになる事業に充当する予算案を次の通り作成し過日の役員総会で決定いたしました。

昭和五九年度同窓会特別会計（基金利息）予算

◎基金総額二〇、五一七、〇〇〇円
歳入予算額二、二五三、四八四円
歳出予算額二、二五三、四八四円

収入の部
繰越金　一、一七八、四八四円
利息収入　一、〇七五、〇〇〇円
計　二、二五三、四八四円

支出の部
1.運動部後援費　一〇〇、〇〇〇円
2.全国大会出場補助費　五〇〇、〇〇〇円
3.部活動強化助成費（体育・文化部の施設、用具購入補助）　五七八、〇〇〇円
4.予備費　一、〇七五、四八四円
計　二、二五三、四八四円

以上、本年度利息は百七万円になる予定ですが、郵便・銀行の利息は一年の間に随時入金されますので、本年度は予備費とし、前年度の繰越金で予算化いたしました。

基金においての本年度事業は、次の同窓会日誌にも記してありますが、
・サッカー高校選手権出場
・定時制生徒のインターハイ出場
・全日制生徒のバレー・剣道の国体出場
・サッカー遠征の補助
・運動部施設としてシャワー五基設置

それぞれ、部活動振興に大いに寄与いたしております。

昨年より金融機関の利率が下がり、予算も縮小せざるを得ないわけですが、今後も募集活動は継続いたしますので、同級会・同期会等の折にご鳳声賜わり、ご協力のほどお願い致します。

※ご協力いただける方は郵便振替東京三一八三二〇五に卒業回数（年度）を併記のうえご送金いただければ幸甚に存じます。また東高校同窓会事務局へお電話いただいても結構です。重ねてよろしくお願い致します。

○本年基金協力者
第二十八回　一万円　永田実治

同窓会
会務日誌抄

◆昭和五十九年四月二十九日
○本校第三回卒　同窓会浜松地区支部長　鈴木実次郎氏
春の叙勲　勲二等瑞宝章を受けられ、同窓会より喜びの祝電を送る。
○篠宮伸二先生（島田商教頭）
氏は鈴木自動車社長より会長を経て、相談役に就かれております。

◆五月五日
会長・副会長会議
出席者　伊村会長・副会長
松永相談役　全員出席
学校側　鎌田学校長　池谷教頭
事務局　篠宮・川村
海野・野本・鈴木貞
○五十九年度役員総会の日程・会場・議題の原案作成
○本年度役員の交替・追加の承認
同窓会事務局の交替
本年度教員人事異動に伴い、
○篠宮伸二先生（島田商教頭）
○川村信也先生（新設大井川高）
の栄転により事務局を
○海野道夫（十九回卒・本年四月榛原高より本校に転任）
○野本寛一（二十八回卒）
○鈴木貞良（四十一回卒）
の交替を承認、篠宮・川村両先生には、回期別役員に推薦し承認。
なお本年度、本校第十五回卒の萩原修蔵先生が定時制教頭として赴任。
○回期別役員に第二十五回卒足立実男氏（藤枝市本町）を承認。
会議終了後、篠宮・川村先生の送別会を開く。両先生は本校同窓会館建設・中庭の造園・二千万基金・名簿の作成・サッカー六十年史等、数多くのお仕事をされました。同窓会より餞別を贈り、長年の労苦に感謝

◆六月二十三日
同窓会役員総会　於同窓会館
○五十八年度会計の決算の承認
岩崎正雄（第十二回卒）幹事より監査報告
○本年度一般会計予算案の承認
本年度特別会計（二千万基金の利息）予算案の承認
○本年度事業
創立六十周年記念「誠の像」建立について、鎌田学校長より主旨説明、提案。万場一致で賛成。
一般会計より支出することを決定。
○役員総会後、会場を懐かしの大正亭に移し、有志にて懇親会を開く。遠方より関東地区事務局中原氏（十五回卒）も参加し、久しぶりの顔に時を忘れての盛会でした。最後に松永前会長の音頭で応援歌を合唱、校歌斉唱のうちに和やかに解散。当夜の参加者二十八名

◆六月二十五日
同窓会副会長鈴木一夫氏、大井川町長に当選）

◆七月
特別基金利息より、基金運用規程に基づき、全国大会出場生徒に各二万円を贈り、同窓会長より、校長室にて激励。
○定通インターハイ出場
四年　増田美和（走幅跳）
一年　清川久雄（自転車）
○国体出場
三年　植田光紀（サッカー）
二年　杉本好基（剣　道）
二年　吉田明人（バレー）
○東海ユースセレクション
二年　山村明央（サッカー）
一年　平口一利（サッカー）
○運動部振興のため、シャワー五基を会長と相談の上助成し、旧体育館壁にそって取り付ける。
渡辺篤司氏（二十九回卒）より献身的な御援助を戴く。

◆十一月二十五日
七月より誠の像建立に伴い、計画準備をし、本日記念式典を挙行す。

◆十二月
○サッカー全国大会出場のため、基金より規程の十万円を贈り、激励す。
PTA・後援会・サッカー父母の会・同窓会にて、全国大会後援のための募金活動を行なう。

◆一月二十五日
○サッカー全国大会の報告会及び会計報告をPTA・後援会・同窓会合同で同窓会館で行なう。同総会より会長・副会長出席。
○同窓会報千南原の取材・編集。以上、本年度の同窓会の事業、動向を記しました。同窓会、同級会等ありましたら是非お知らせ下さい。